

お薬手帳の活用促進事業の 効果解析結果について

お薬手帳の活用促進事業

【目的】

お薬手帳の持参を促し、薬局における服薬情報の一元管理を促進する。

【取組】

お薬手帳を持参することの意義やメリットについて普及啓発するためのリーフレット及びお薬手帳の持参を促す「ポケット付きお薬手帳ホルダー」(保険証、診察券などと併せてお薬手帳を携行できる)を重複服薬者に送付する。

●送付対象者の抽出条件

後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品(成分)の処方を受けている者で、以下の者を除く。

- ・がん、認知症、うつ、統合失調症の者
- ・死亡している又は資格喪失している者
- ・住所が県外の者(県外施設入所者)

●抽出期間及び送付者数

- ・平成30年度:2018年4月～7月 10,344名(2018年12月送付)
- ・令和元年度:2019年4月～7月 4,225名(2019年12月送付)

●今後の予定

○効果解析

- ・送付後、抽出条件該当者の増減や送付対象者のお薬手帳の持参状況を確認。
- ・送付対象者の抽出時から一年後や送付直後の処方変化を確認。
- ・新しい解析条件の検討。

○事業の継続

効果解析の結果を踏まえ、抽出条件を検討して新たな対象者に送付を行う(令和2年度)。



解析内容

1. 送付対象者の推移

- ① 「各月における重複該当者」及び「そのうちの送付対象者の割合」の推移
- ② 送付前後の該当月数の変化
- ③ 送付前後の重複該当回数の変化
(新条件※で解析)

2. お薬手帳持参状況

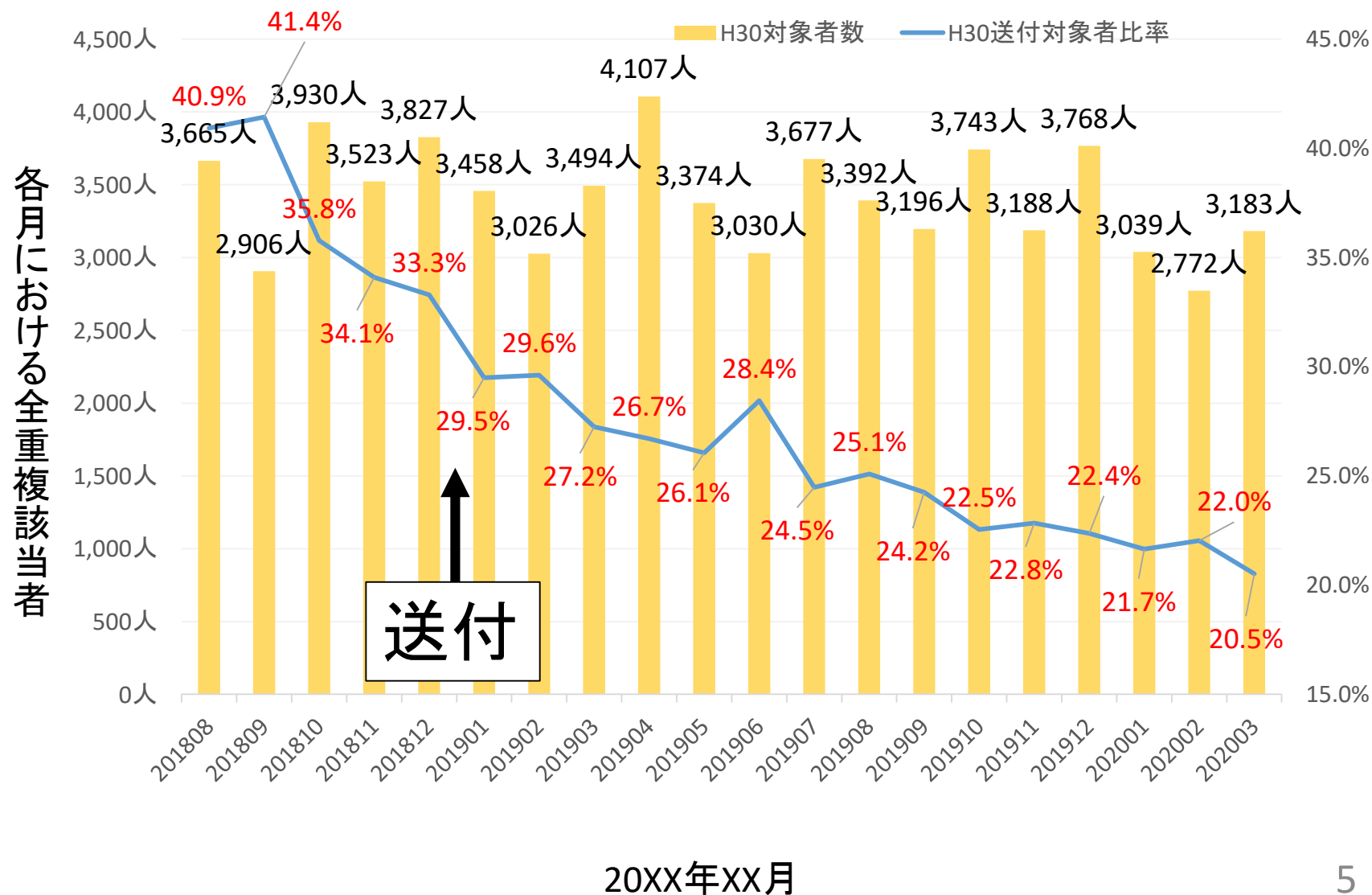
- ① お薬手帳持参状況変化
- ② お薬手帳持参状況変化(新条件※で解析)

※資料4-2参照

1. 送付対象者の推移

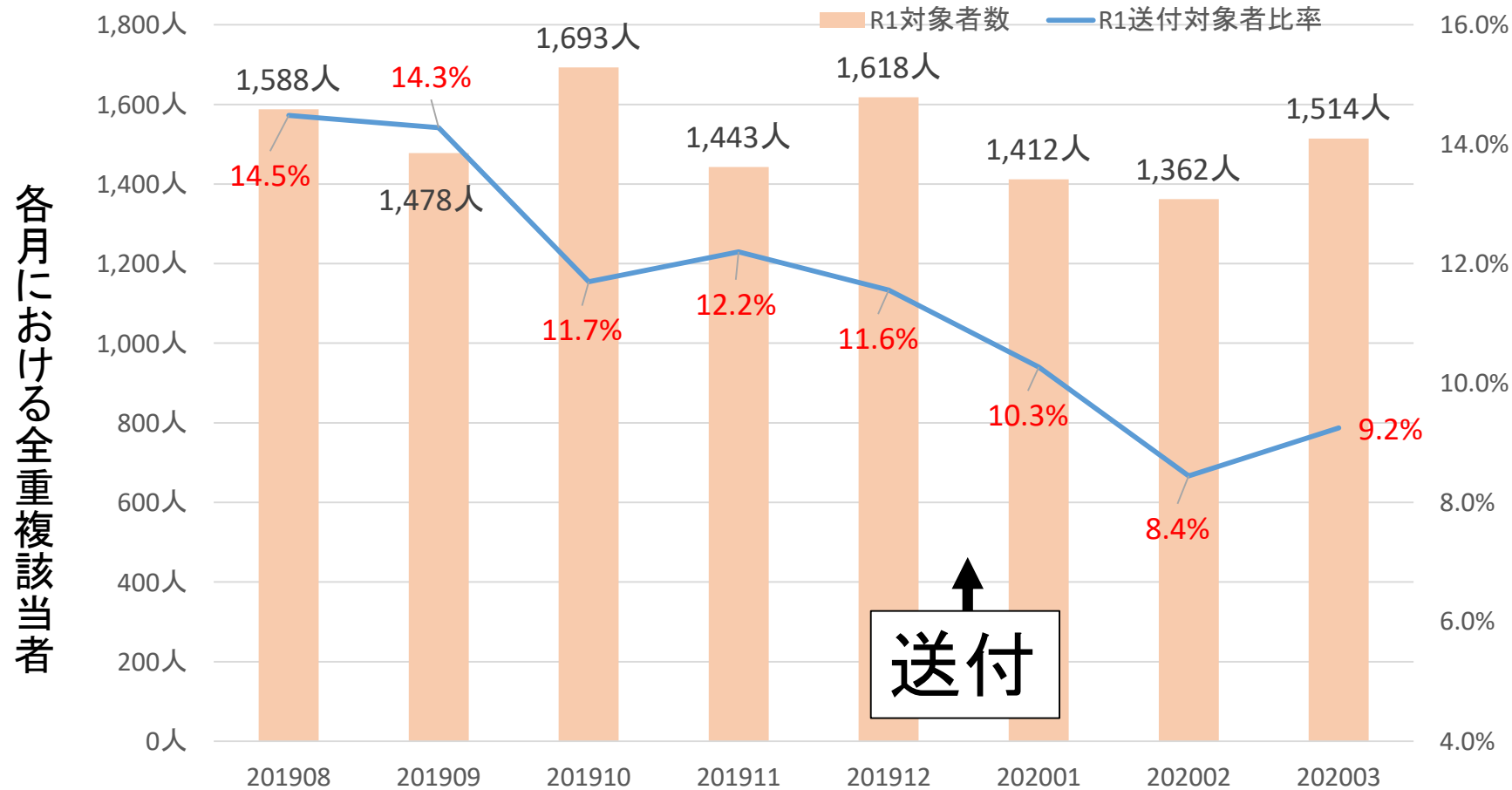
結果①-1

重複該当者及び送付対象者の推移(平成30年度送付)



結果①-2

重複該当者及び送付対象者の推移(令和元年度送付)



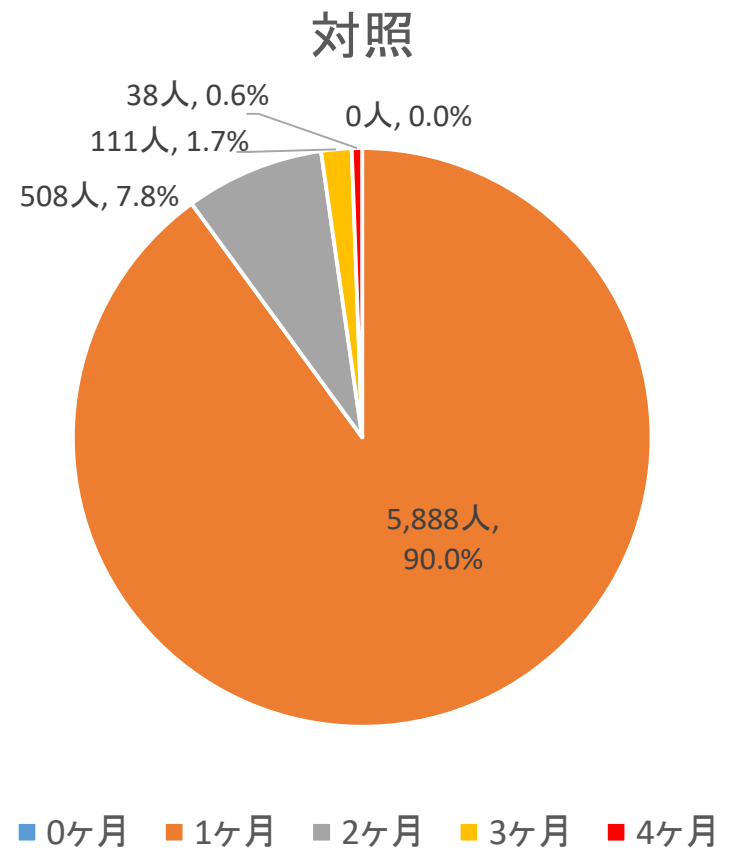
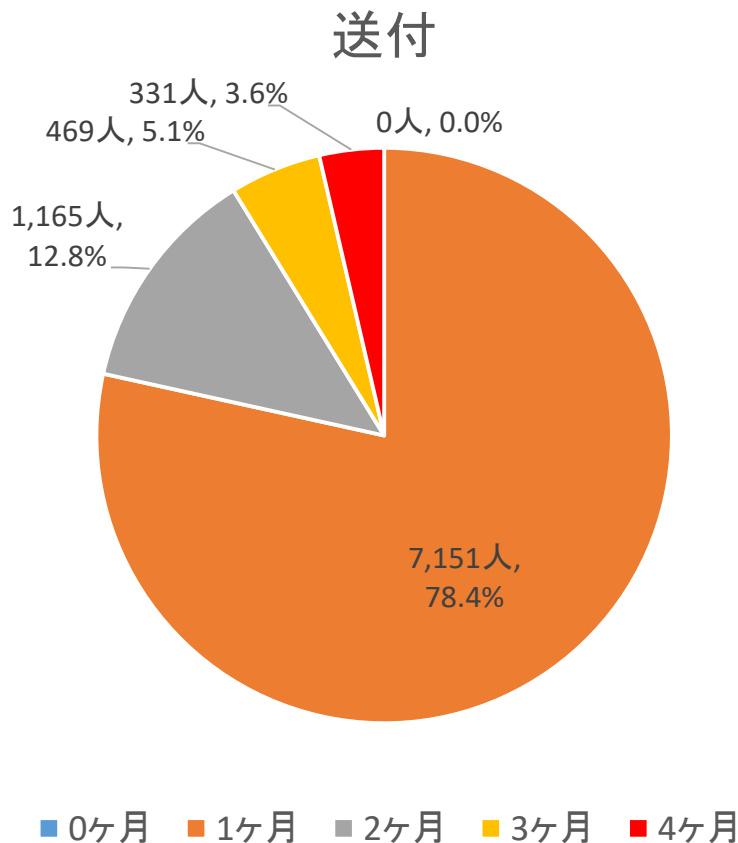
考察①

- 全重複該当者数(送付対象者以外も含む)は、ばらつきがあったが、送付対象者の占める割合は減少傾向がみられる。
- 平成30年度送付対象者の占める割合は、送付から1年間後の2019年12月には、10.9%減少した。
- 令和元年度送付対象者の占める割合は、2019年12月の送付後、減少傾向がみられる。

結果②ー1 (平成30年度送付)

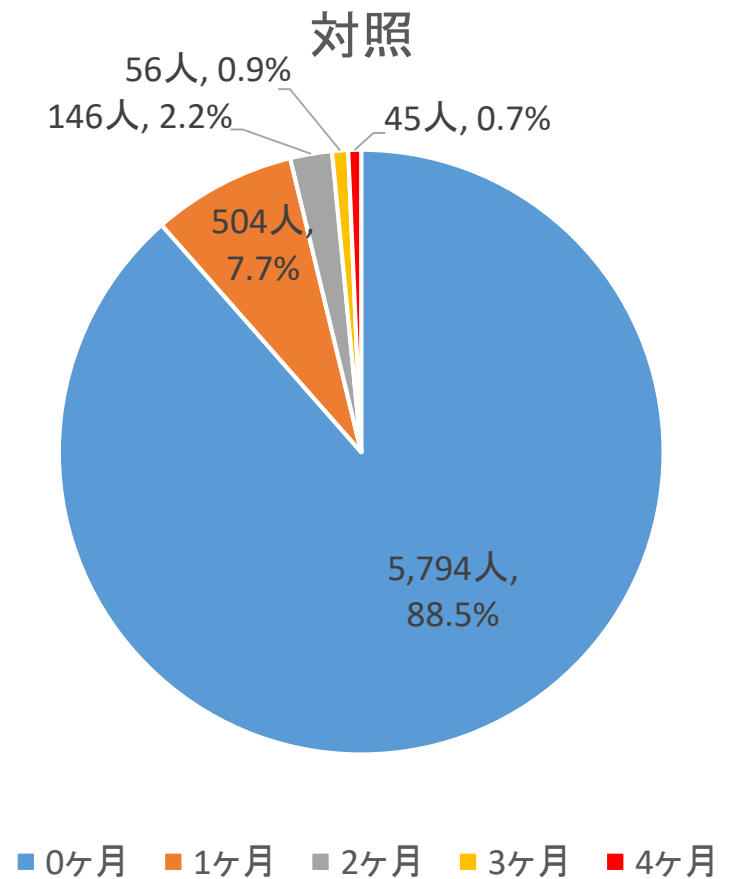
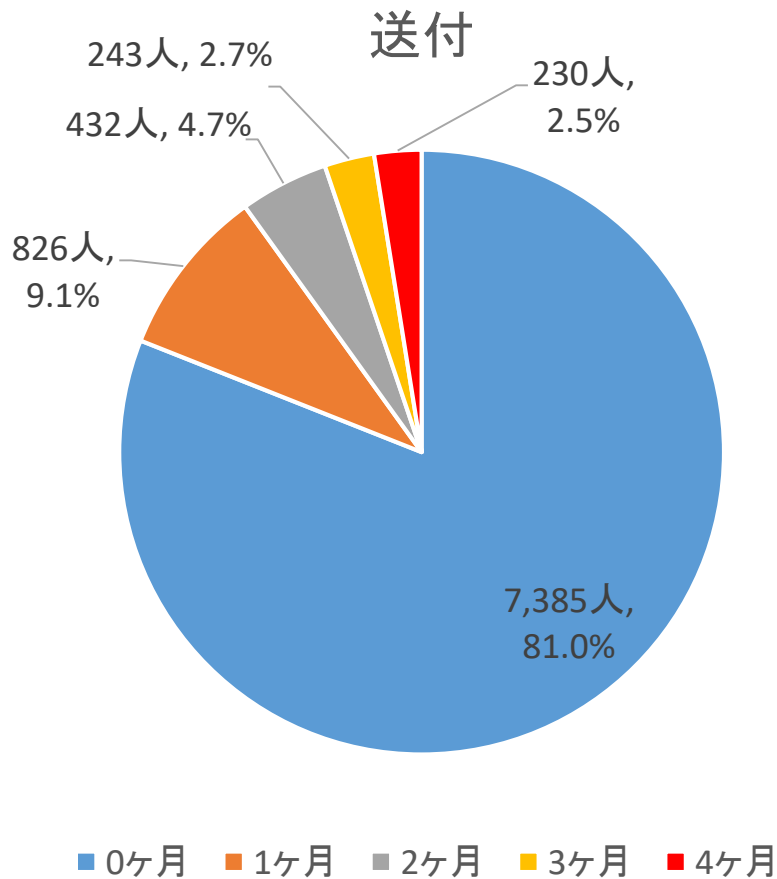
送付前の抽出期間※における重複該当月数

※ 送付群(2018.4~7)、対照群(2018.8~11)



結果②-2(平成30年度送付)

送付後の評価期間(2019.4~7)における重複該当月数

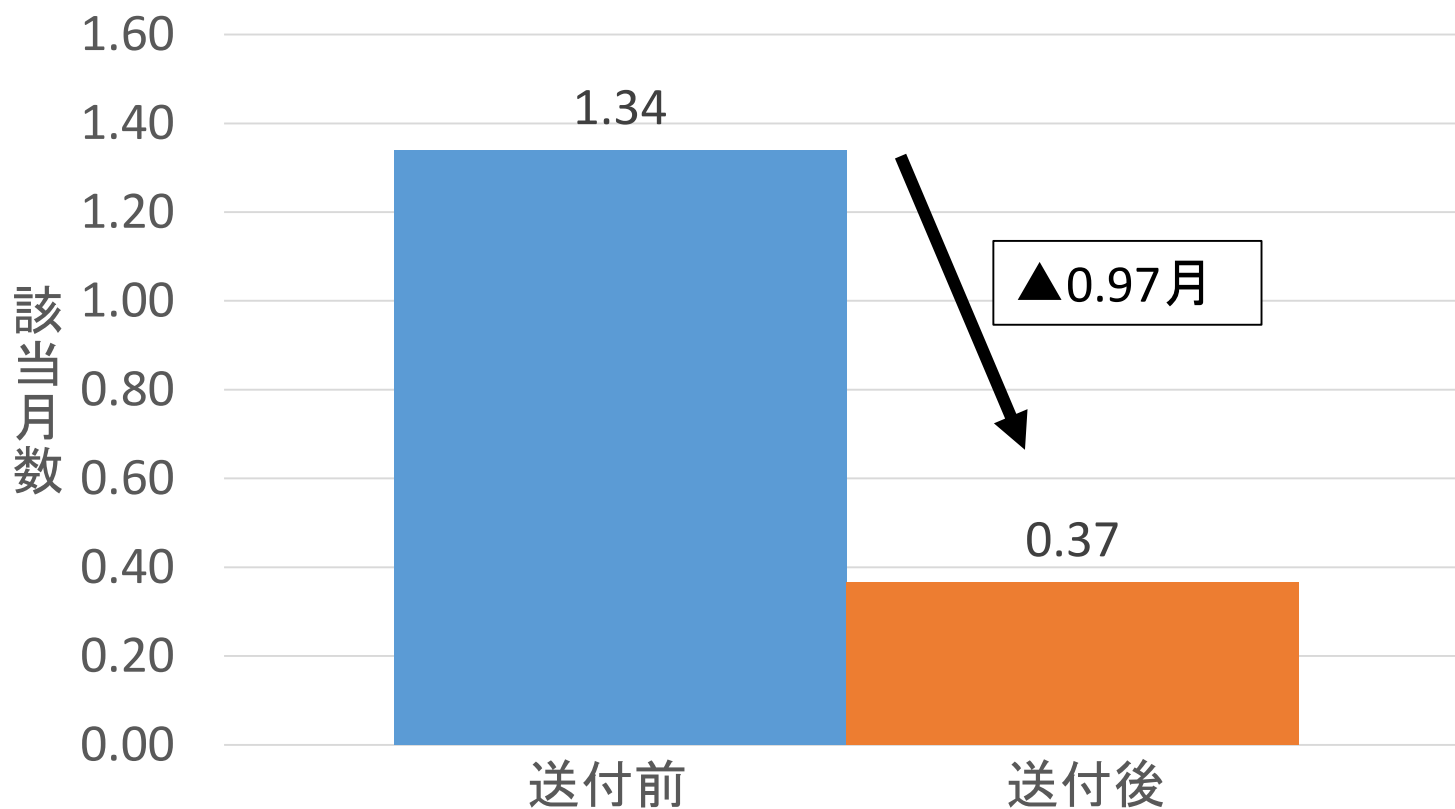


結果②-3

送付群の送付前後の該当月数の変化

送付前後の該当月数の変化

対応のあるt検定: $t=112.78$, $p < 0.001$

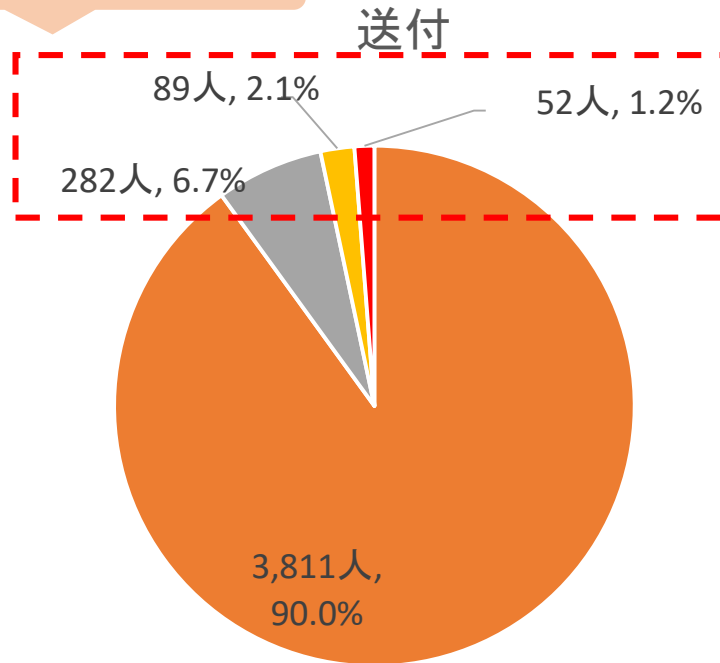


結果②一4(令和元年度送付)

送付前の抽出期間※における重複該当月数

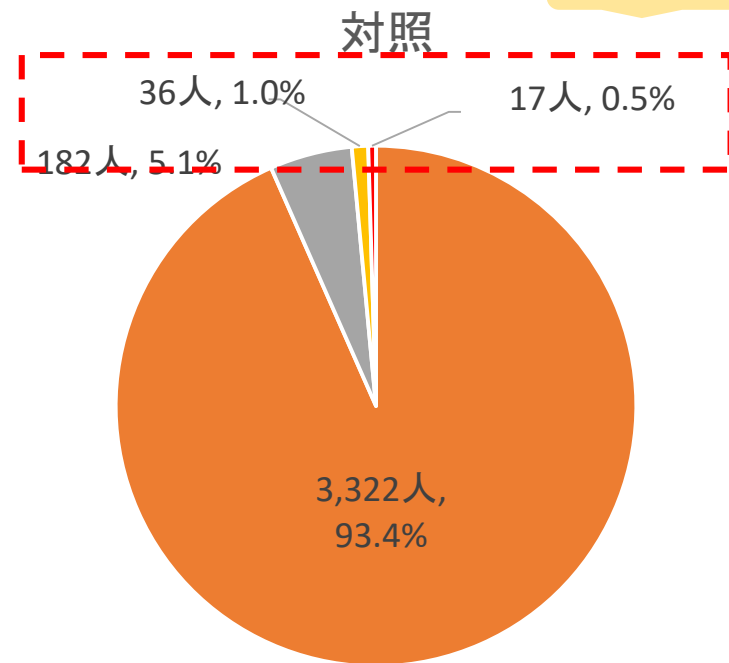
※ 送付群(2019.4~7)、対照群(2019.8~11)

423人、10.0%



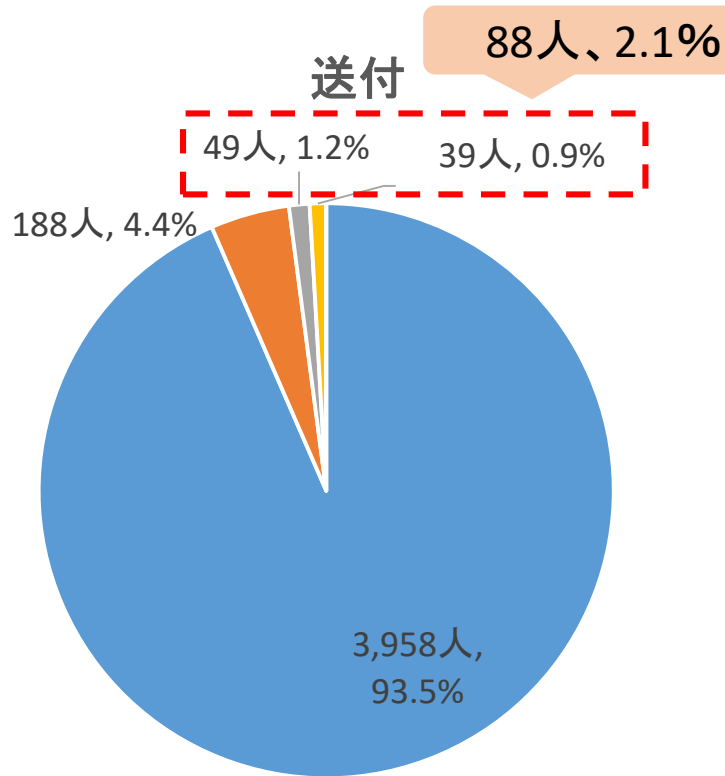
■ 0ヶ月 ■ 1ヶ月 ■ 2ヶ月 ■ 3ヶ月 ■ 4ヶ月

235人、6.6%

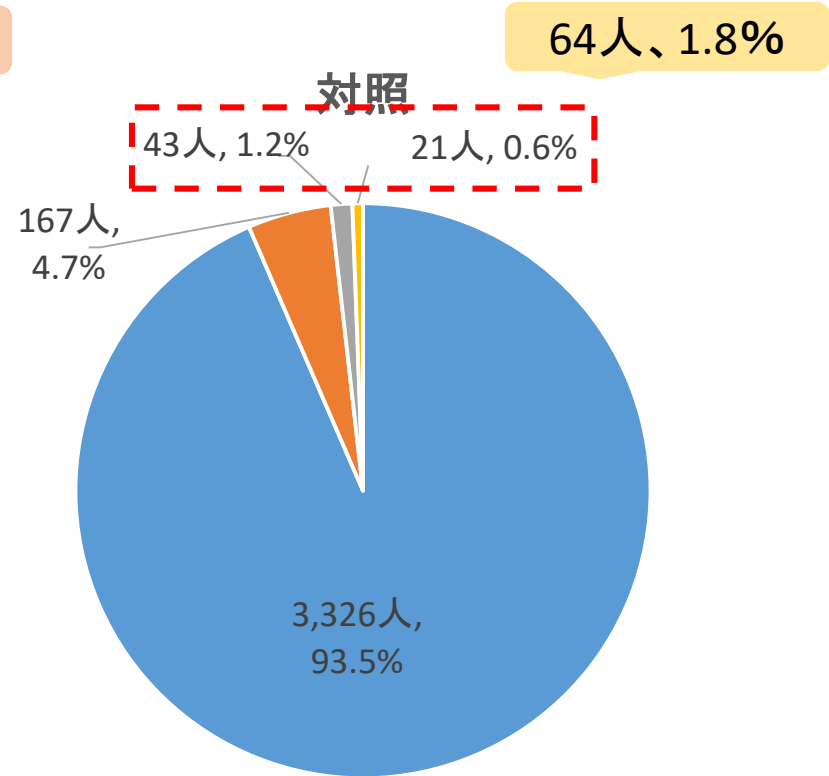


■ 0ヶ月 ■ 1ヶ月 ■ 2ヶ月 ■ 3ヶ月 ■ 4ヶ月

結果②—5 (令和元年度送付) 送付直後(2020.1~3)における重複該当月数



■ 0ヶ月 ■ 1ヶ月 ■ 2ヶ月 ■ 3ヶ月



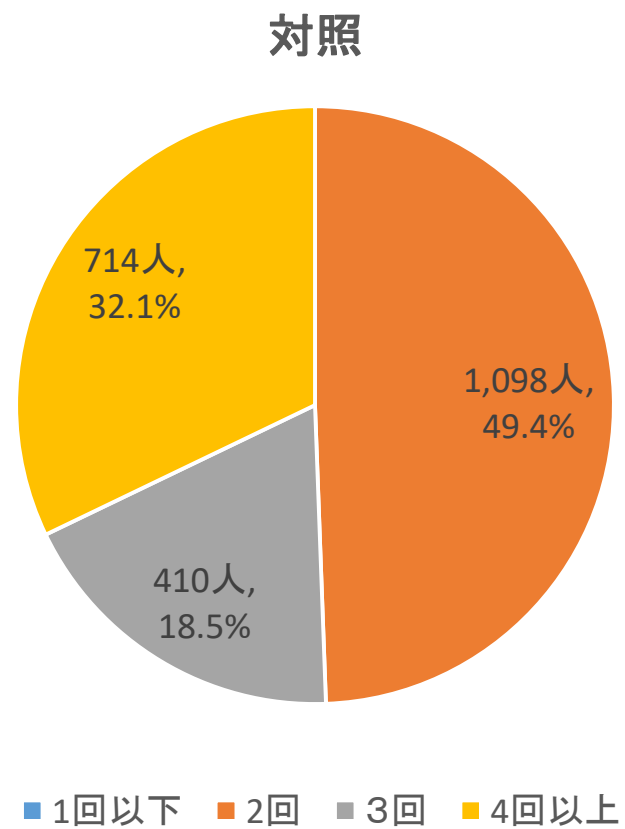
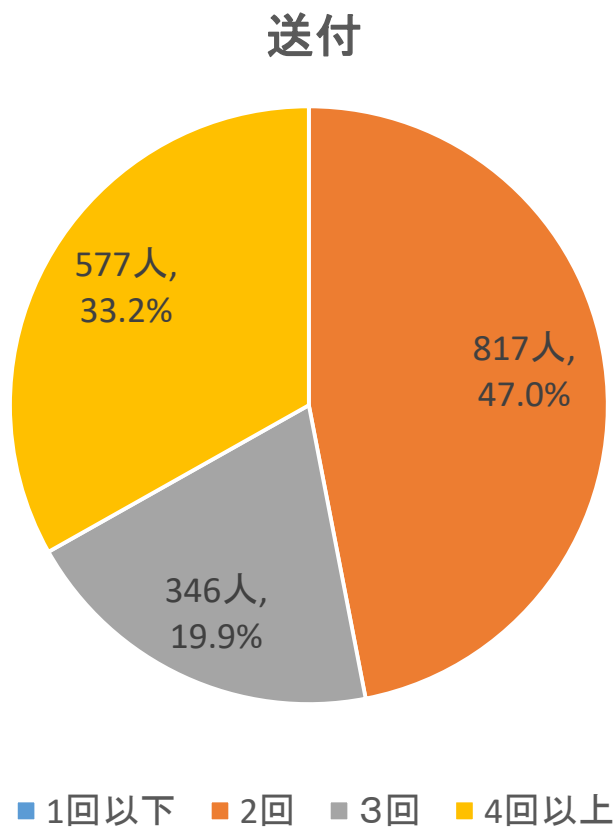
■ 0ヶ月 ■ 1ヶ月 ■ 2ヶ月 ■ 3ヶ月

考察②

- H30年度送付対象者は、送付前後で重複該当月数は、有意に0.97か月程度の減少がみられた。
- R1年度送付対象者は、送付直後の期間で、重複該当月数が2か月以上の者は、送付群及び対照群で大きく減少している。送付群で約1/5、対照群で約1/4に減少しており、送付群の方が減少の程度が高かった。

結果③-1 (新条件:平成30年度送付)

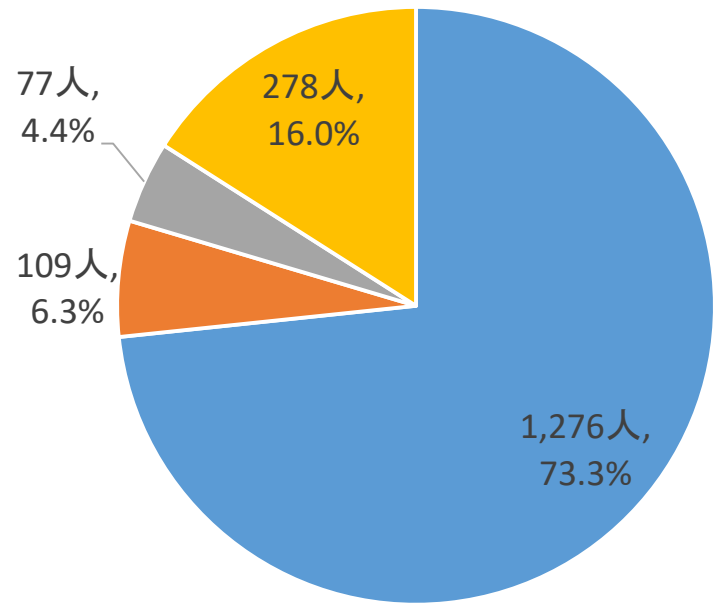
送付前の抽出期間(2018年4月~7月)における重複該当回数



結果③-2(新条件:平成30年度送付)

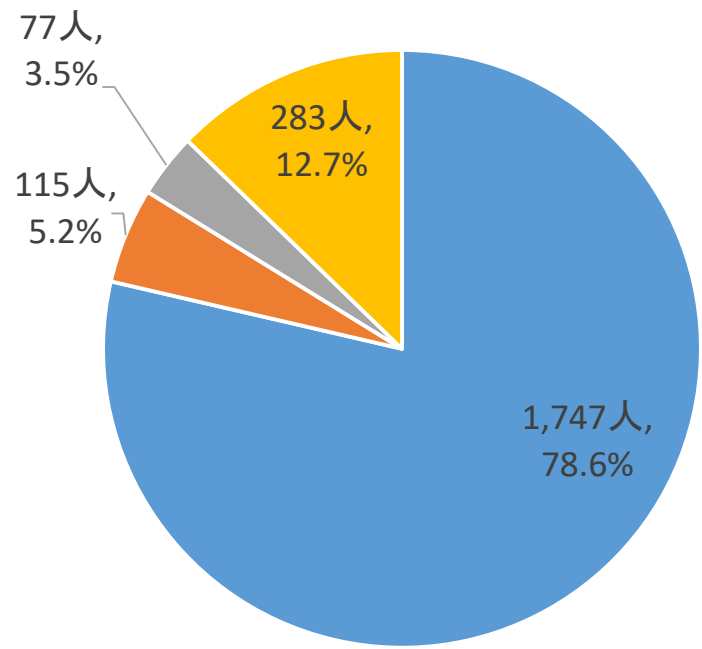
送付後の評価期間(2019年4月~7月)における重複該当回数

送付



■ 1回以下 ■ 2回 ■ 3回 ■ 4回以上

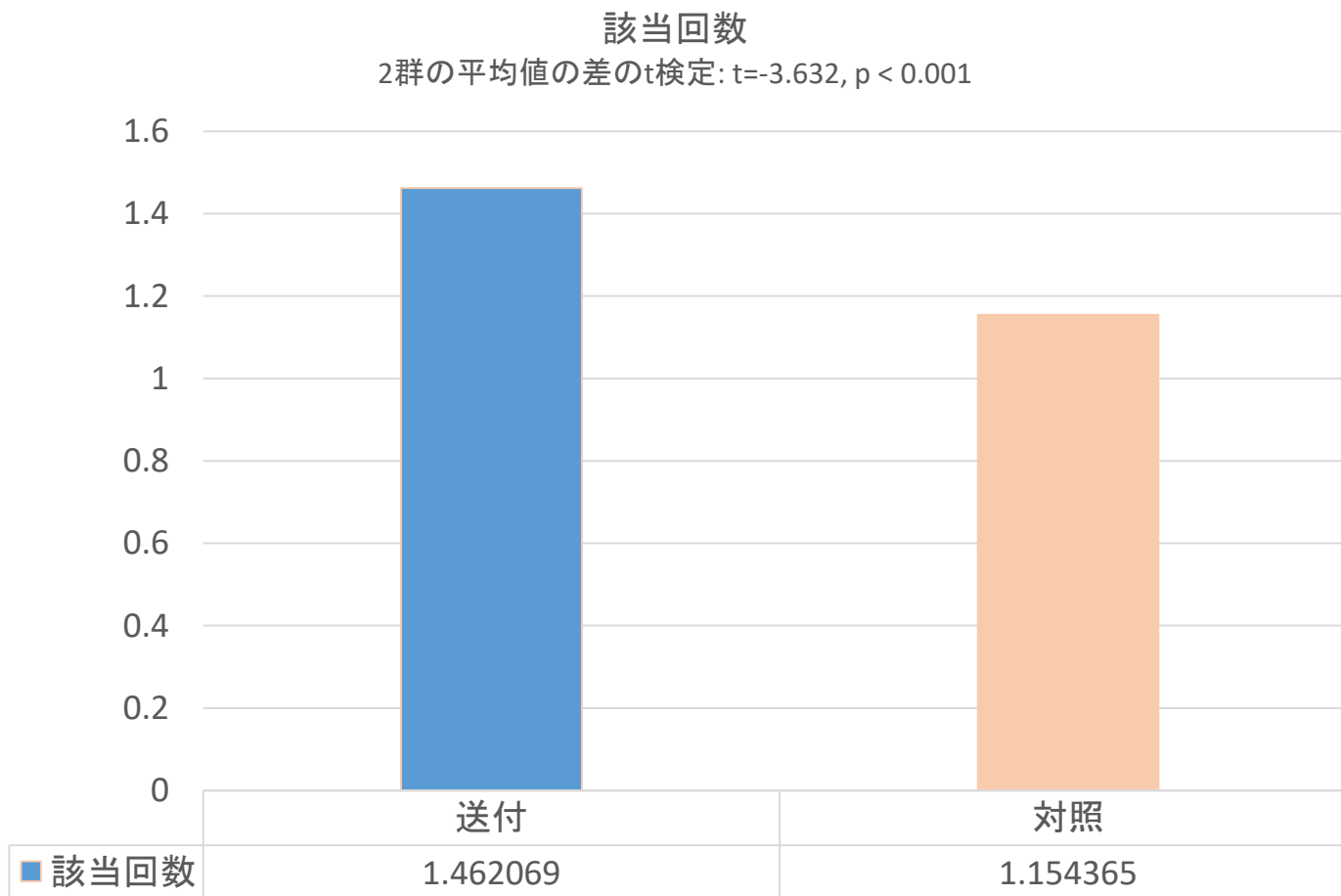
対照



■ 1回以下 ■ 2回 ■ 3回 ■ 4回以上

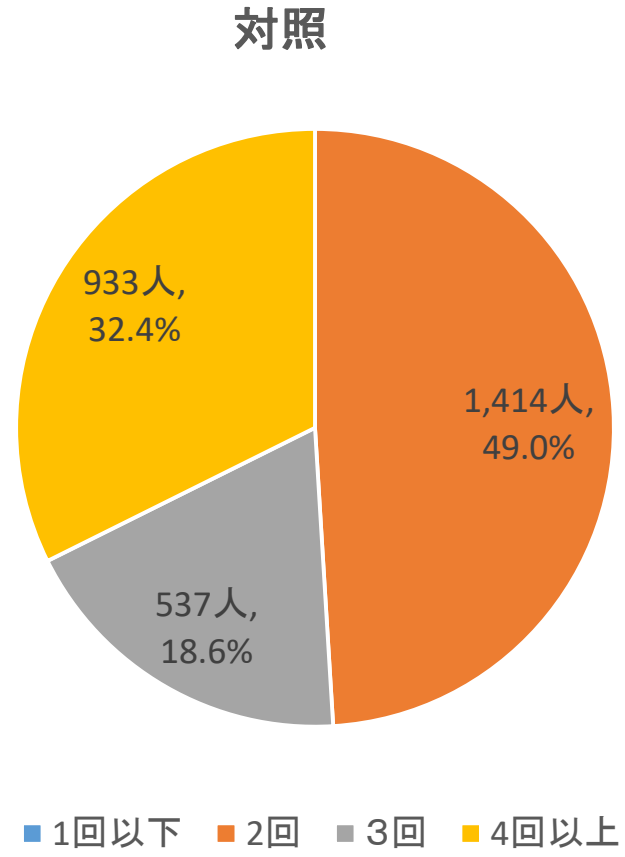
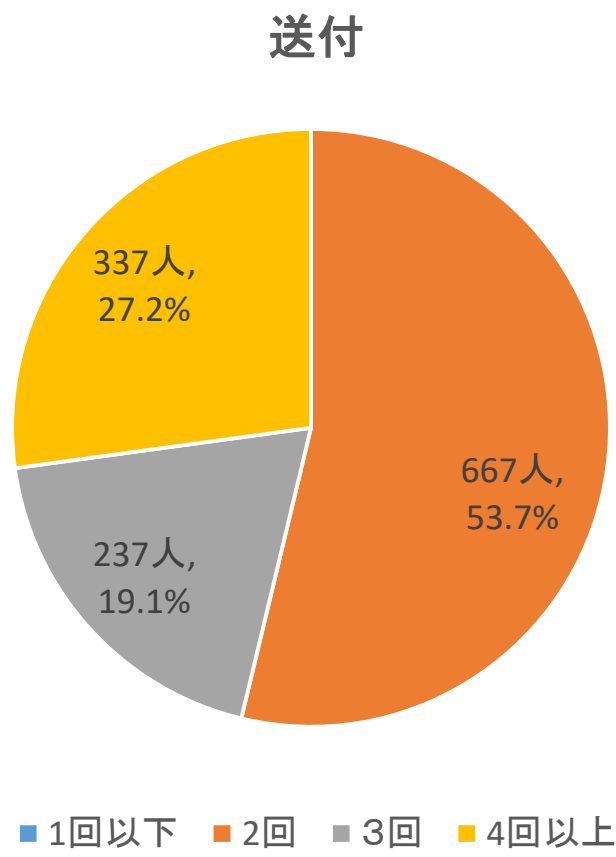
結果③-3

送付後の2群の該当回数(平均値)



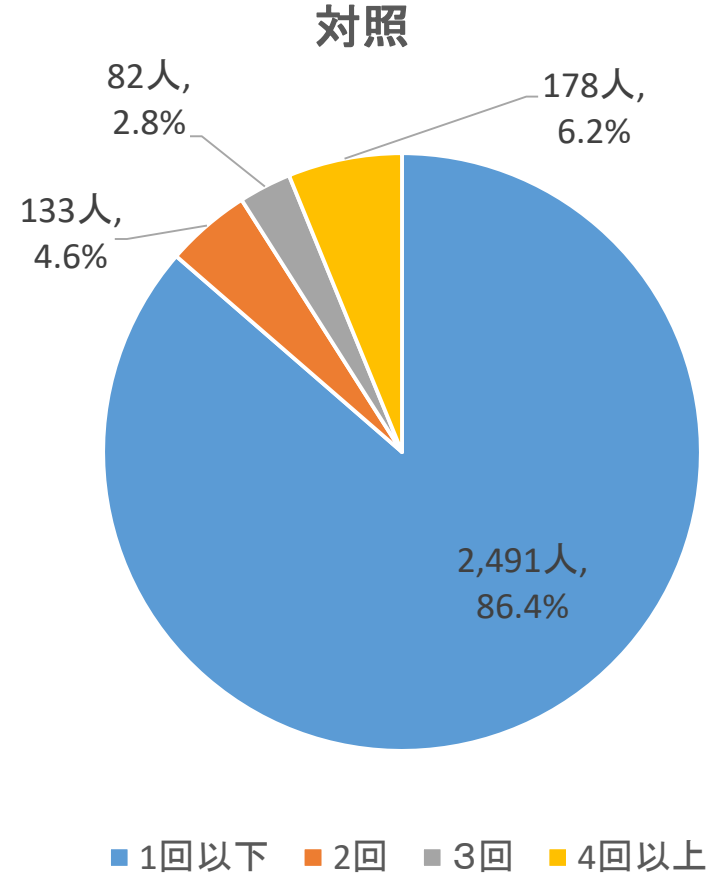
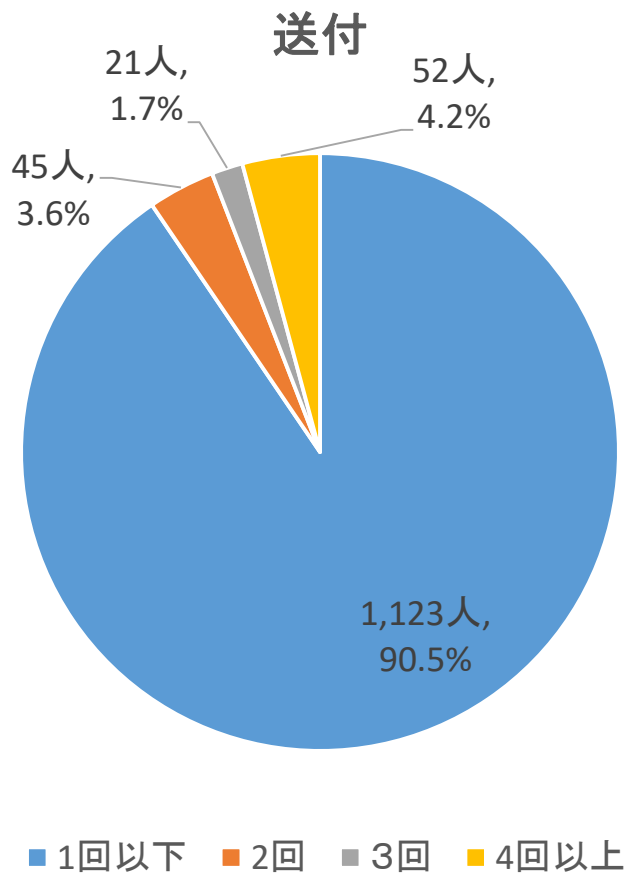
結果③-4 (新条件: 令和元年度送付)

送付前の抽出期間(2019年4月~7月)における重複該当回数



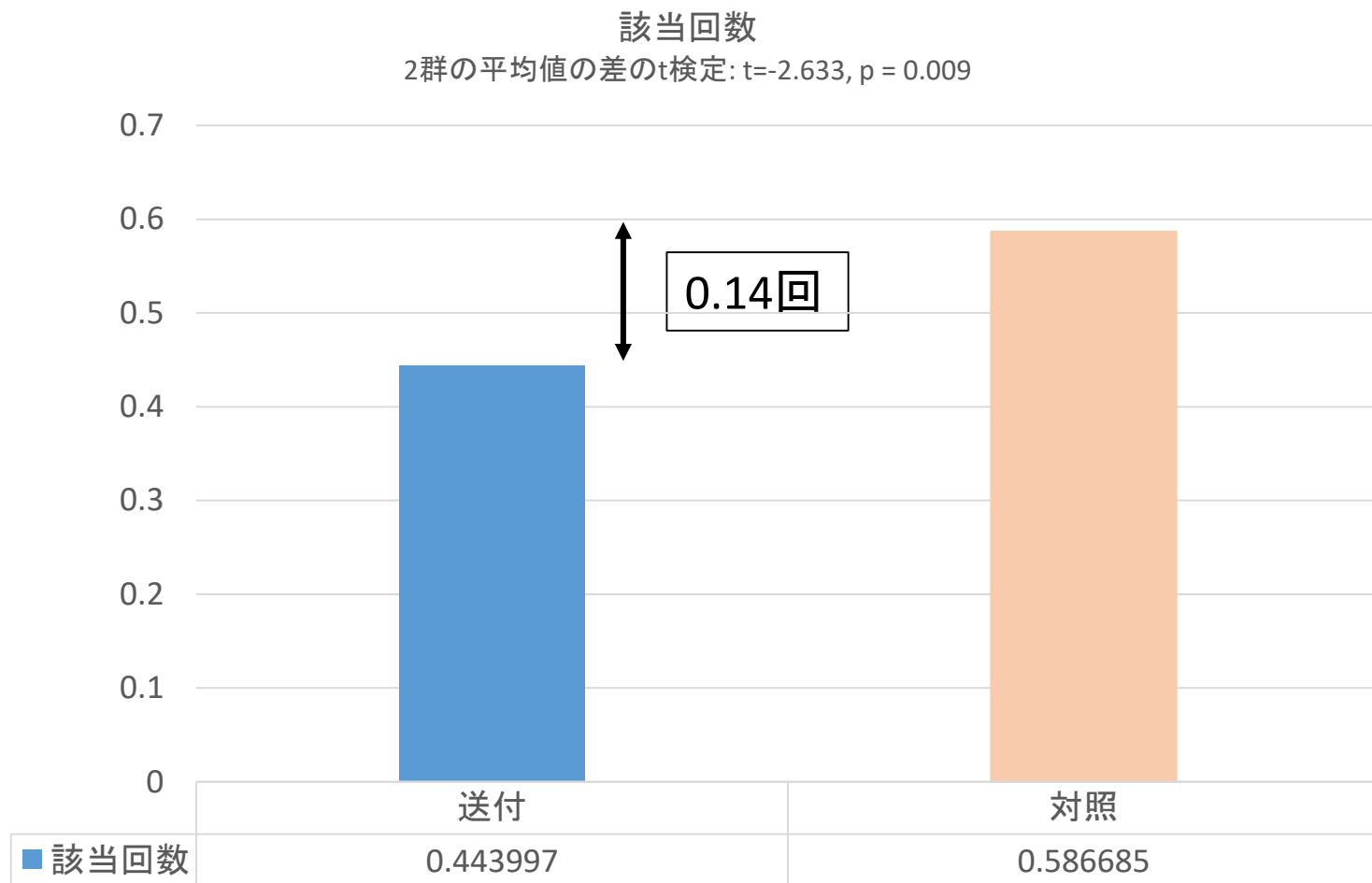
結果③-5 (新条件: 令和元年度送付)

送付後の評価期間(2020年1月~3月)における重複該当回数



結果③-6

送付後の2群の該当回数(平均値)



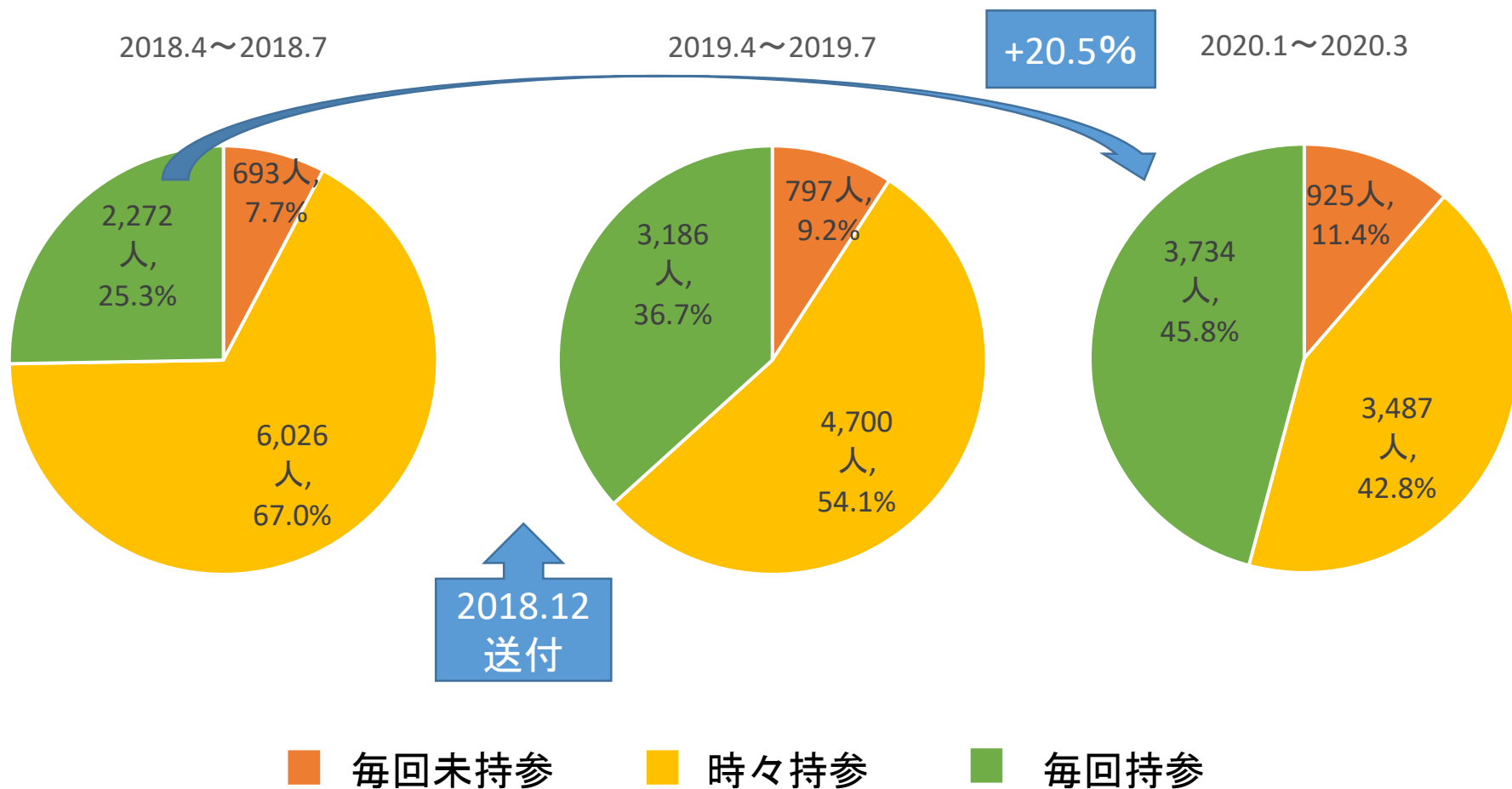
考察③

- (H30年度)送付群及び対照群も、2回以上重複件数があった者は、ホルダー送付1年後の評価期間において大きく減少し、1回以下の重複該当者となった(約75%前後)。
- 重複該当回数が1回以下となった割合は、対照群の方が、高かった。
- (R1年度)送付群及び対照群も、2回以上重複件数があった者は、ホルダー送付直後の評価期間において大きく減少し、1回以下の重複該当者となった(約90%前後)。
- 重複該当回数が1回以下となった割合は、送付群の方が、高かった。

2. お薬手帳持参状況

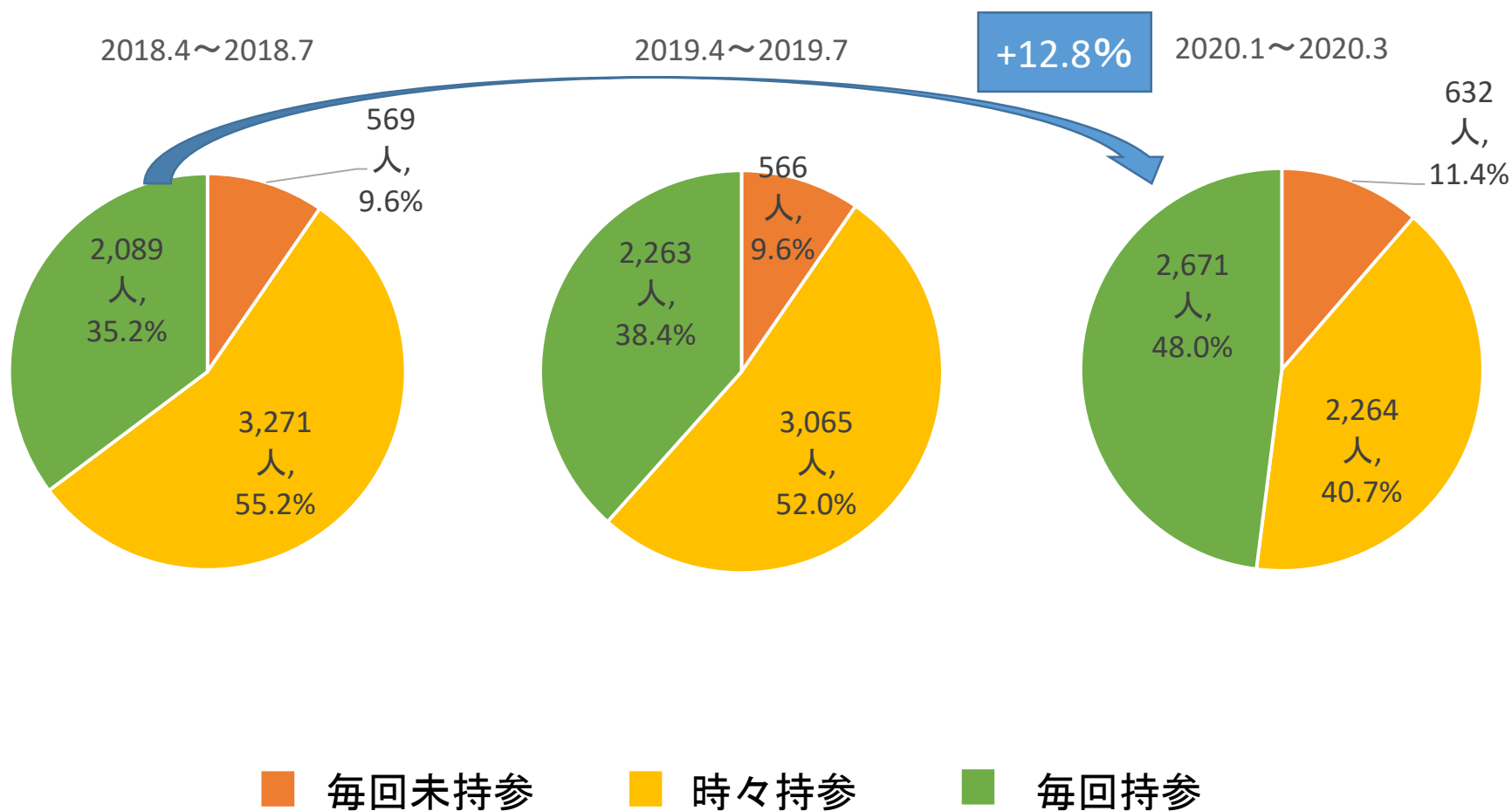
結果①-1

平成30年度送付群のお薬手帳持参状況変化



結果①-2

平成30年度対照群のお薬手帳持参状況変化

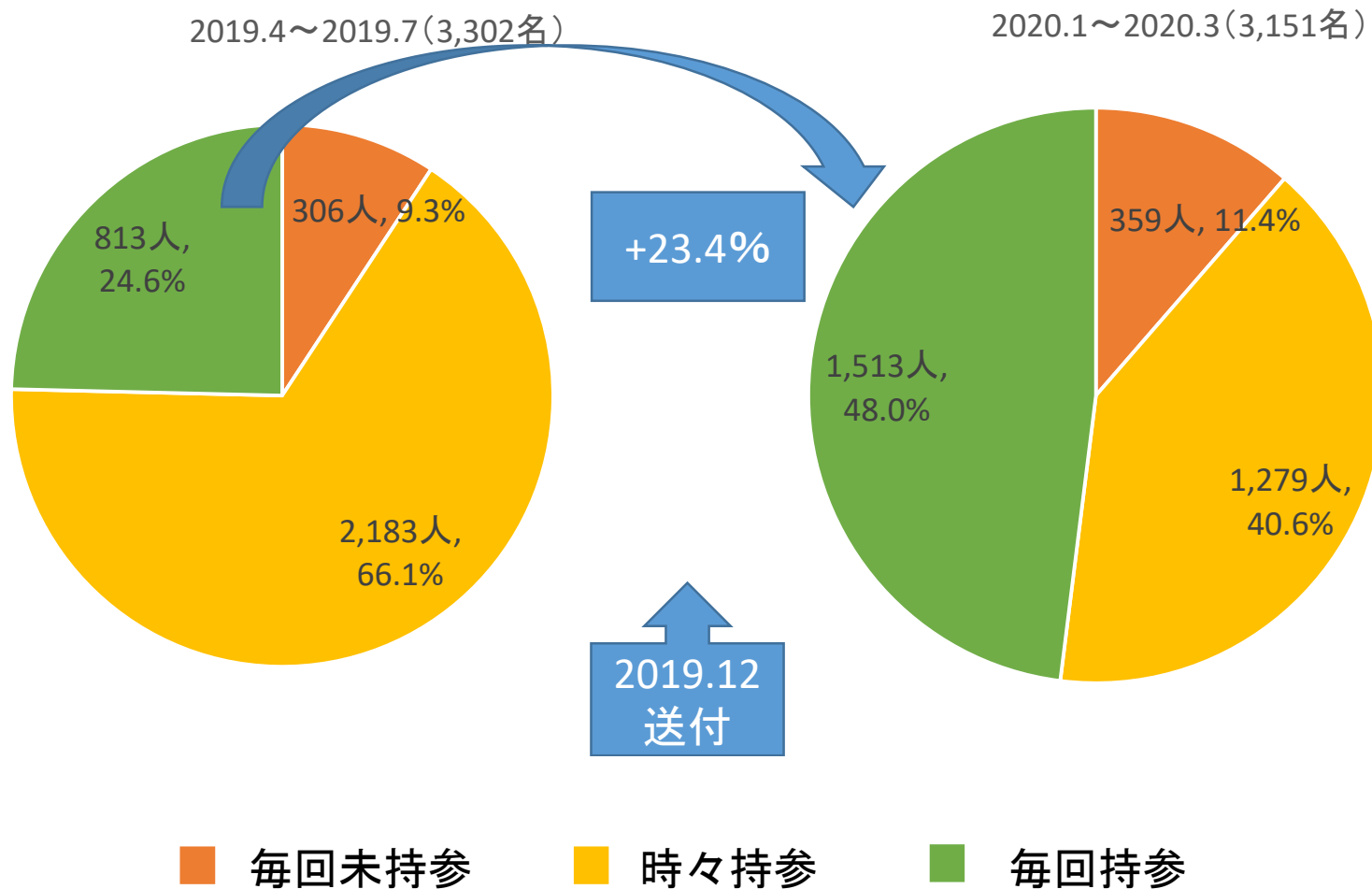


考察①（平成30年度）

- 送付群、対照群ともに、毎回未持参の患者割合は減少がみられず、対照群と送付群との間に差はほとんどみられなかった。
- 送付群、対照群ともに、毎回持参の患者割合は増加しており、送付群の方が増加の程度が大きかった。
- 送付後1年を経た期間（2020年1～3月）では、その割合は、送付群で20.5%、対照群では12.8%の増加がみられた。

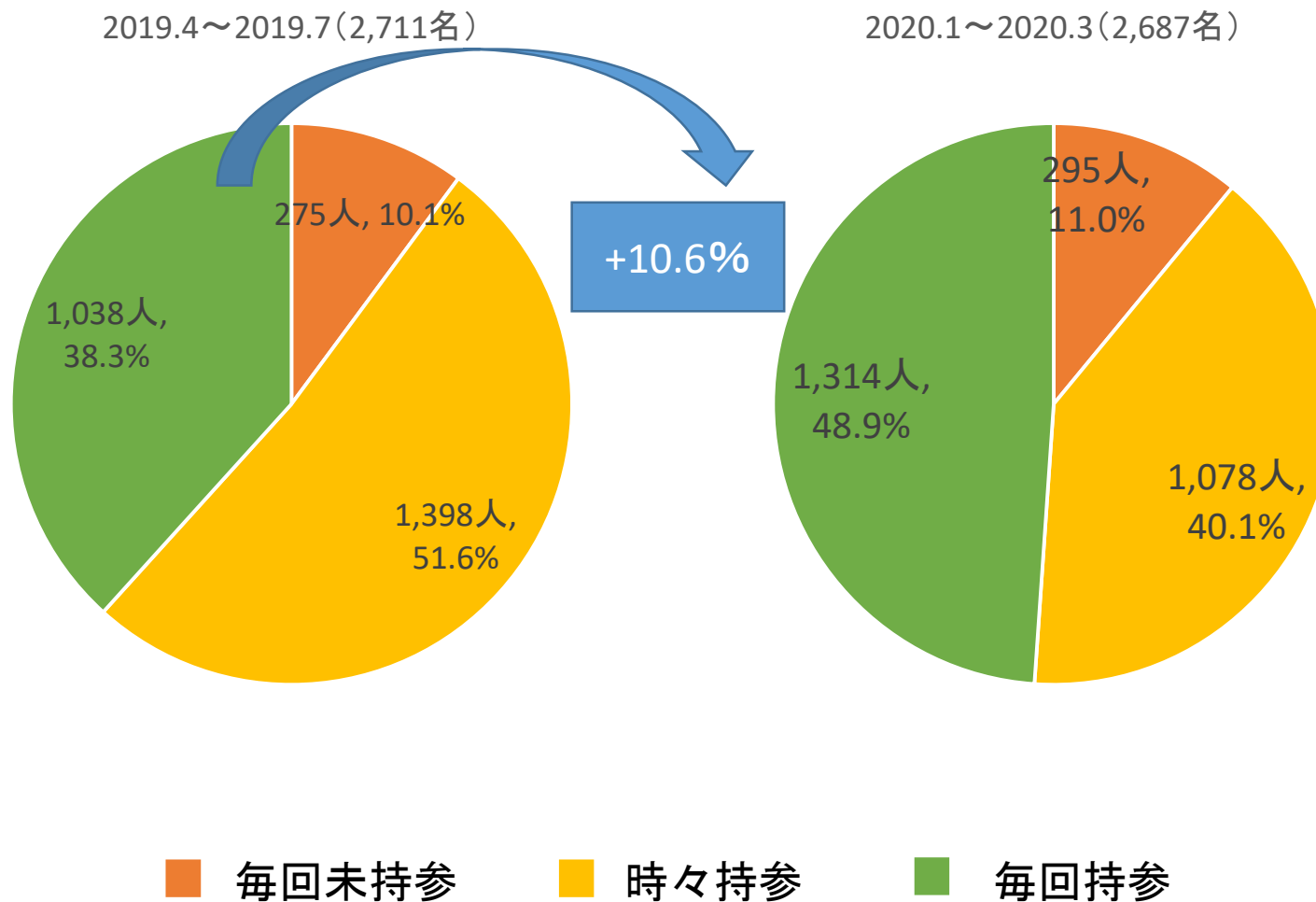
結果②-1

令和元年度送付群のお薬手帳持参状況変化



結果②-2

令和元年度対照群のお薬手帳持参状況変化

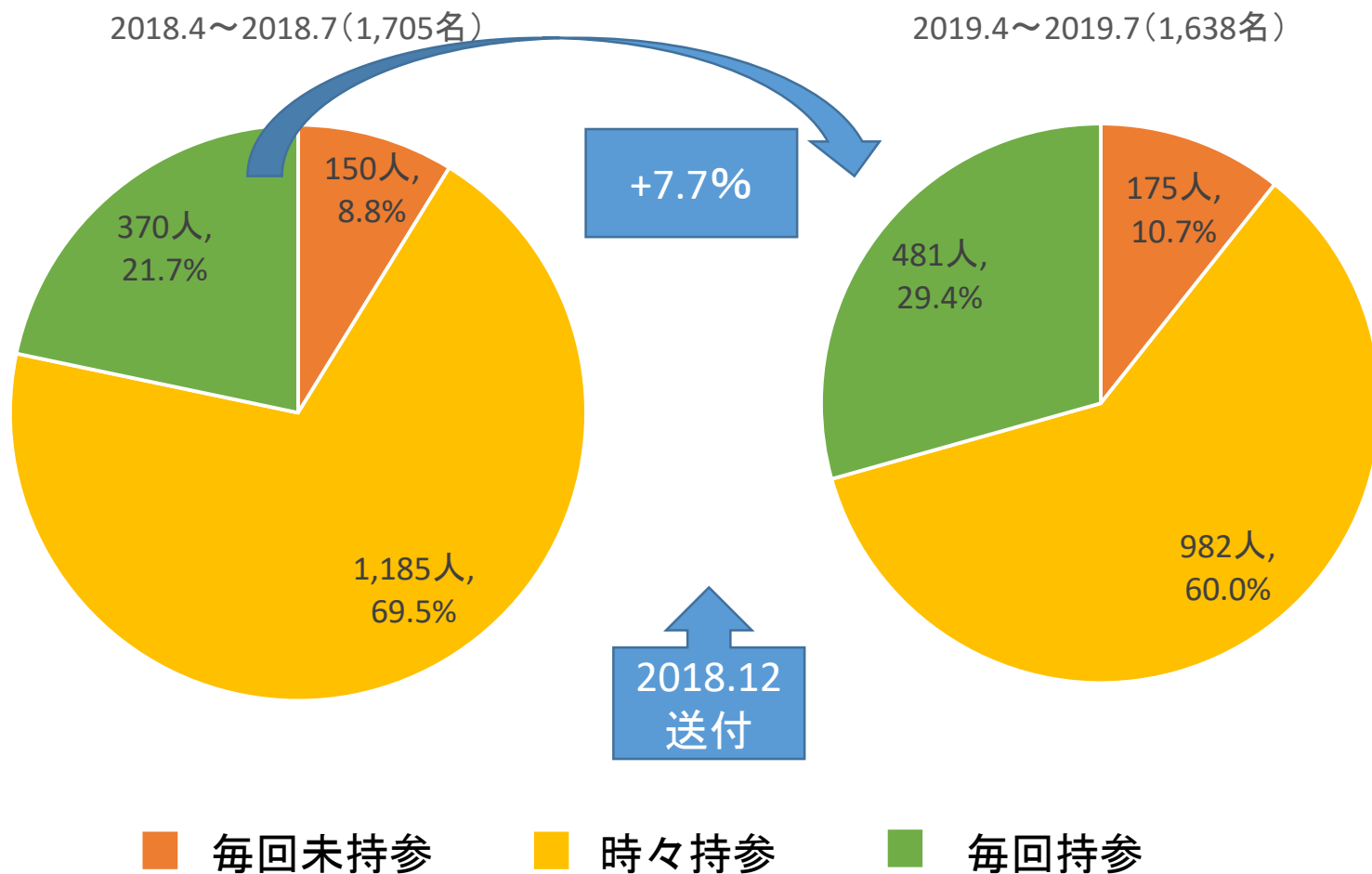


考察②（令和元年度）

- 送付群、対照群ともに、毎回未持参の患者割合は減少がみられず、両群との間に差はほとんどみられなかった。
- 送付群、対照群ともに、毎回持参の患者割合は増加している。送付群で23.4%、対照群では10.6%と、送付群で増加の程度が大きかった。

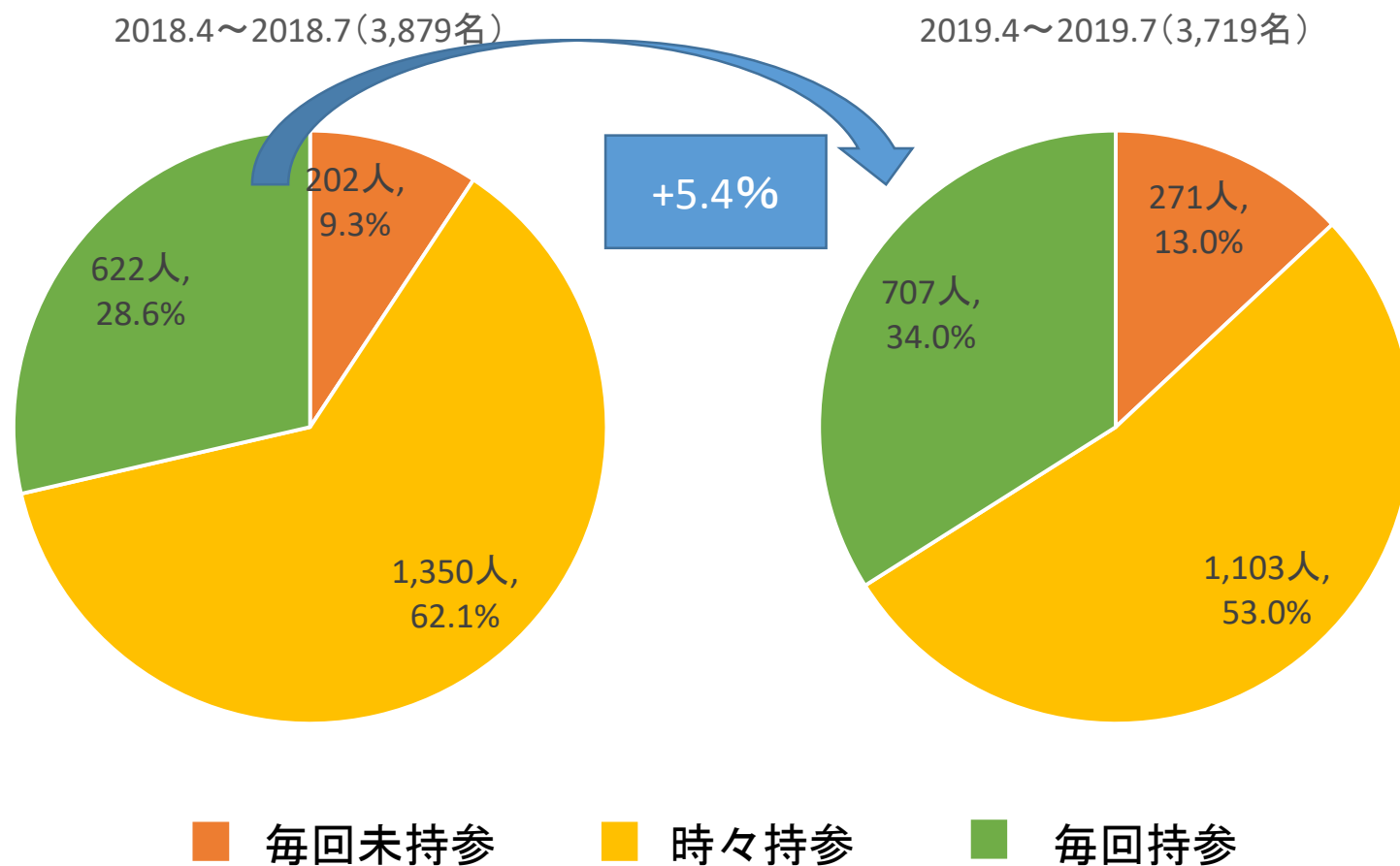
結果③-1(新条件)

平成30年度送付群のお薬手帳持参状況変化



結果③-2(新条件)

平成30年度対照群のお薬手帳持参状況変化

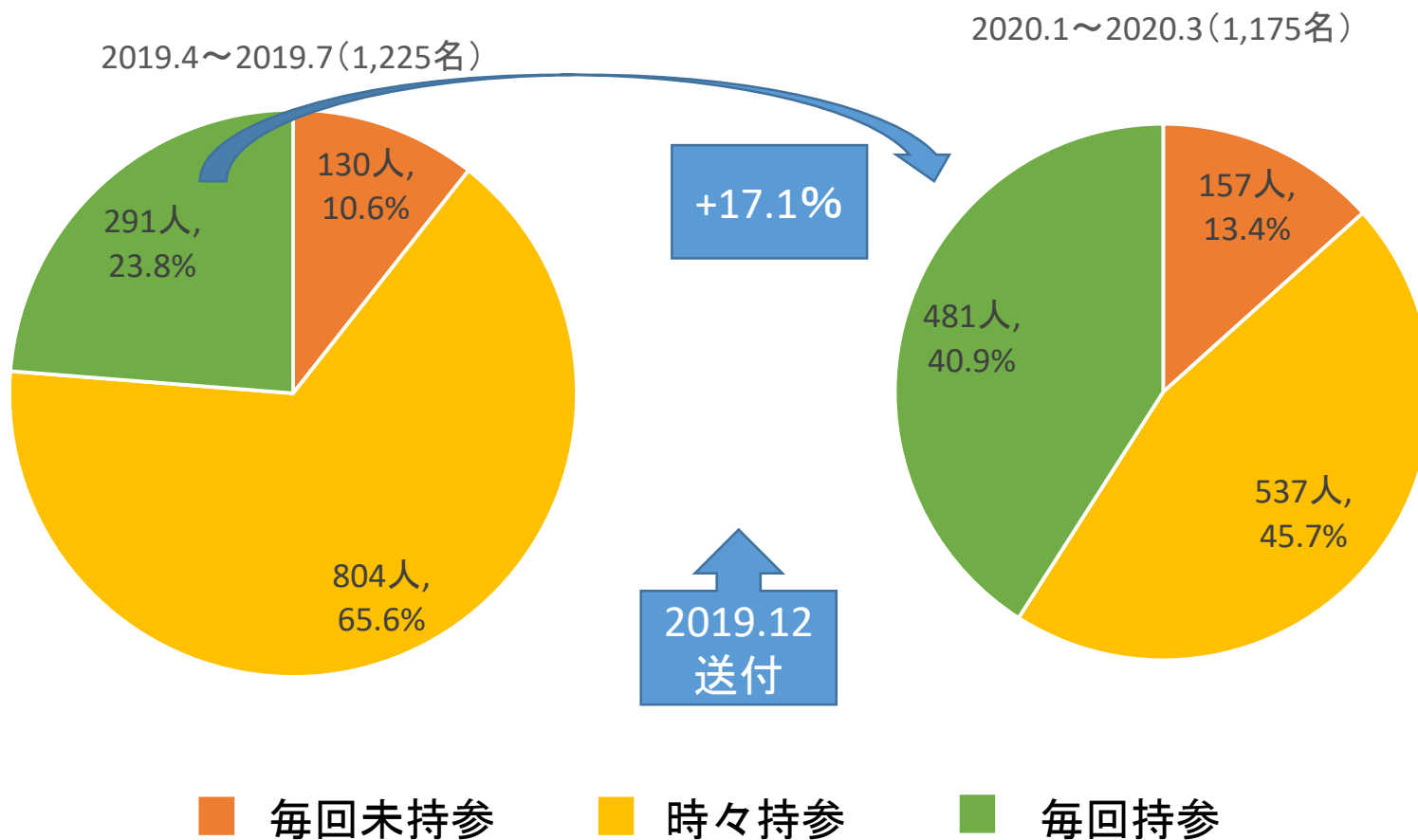


考察③(新条件:平成30年度)

- 送付群、対照群ともに、毎回未持参の患者割合は若干増加していたが、送付群の方が、増加の程度が小さかった(送付群+1.9%、対照群+3.7%)。
- 送付群、対照群ともに、毎回持参の患者割合は増加していた。送付群では7.7%、対照群では5.4%と、送付群で増加の程度が大きかった。

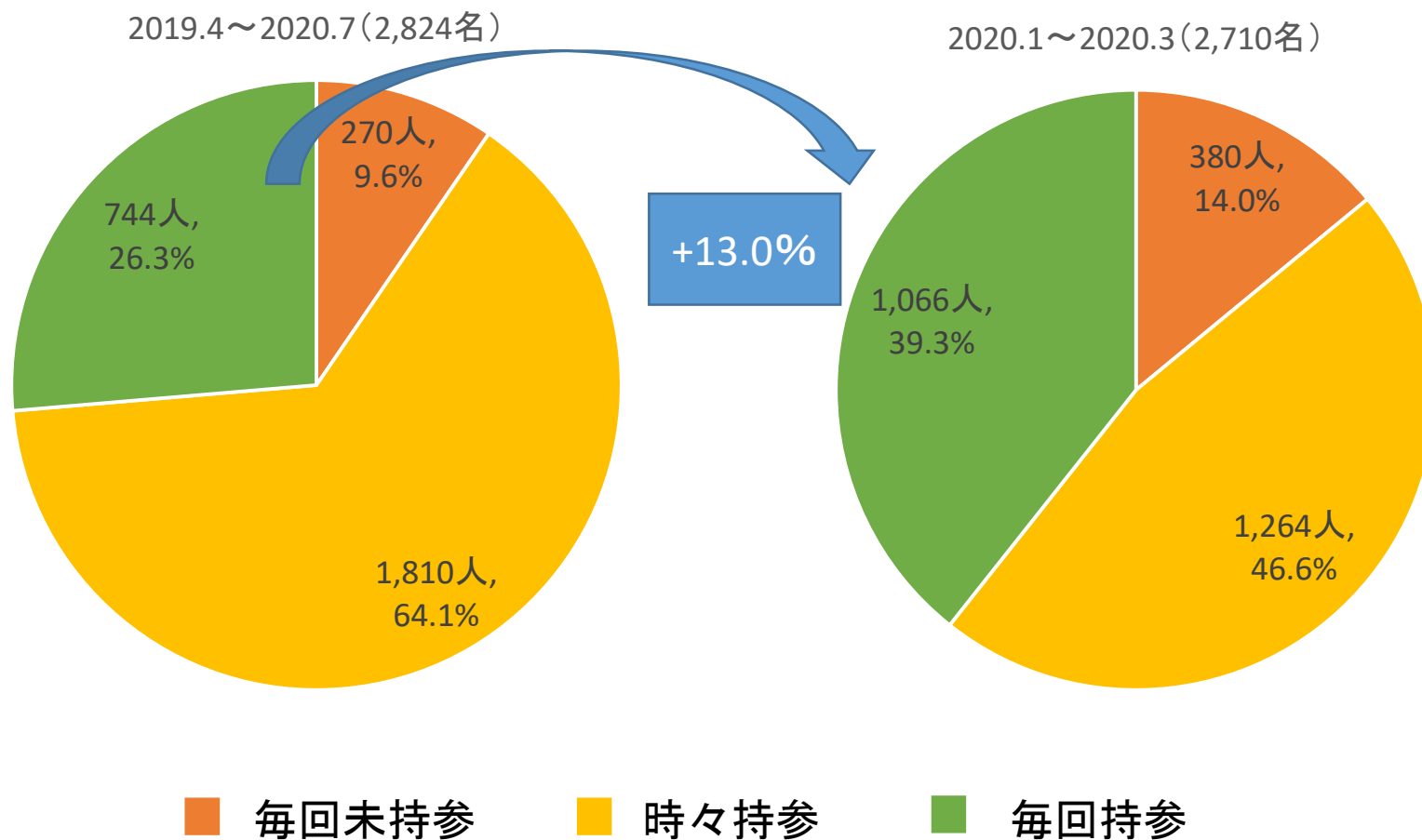
結果④-1(新条件)

令和元年度送付群のお薬手帳持参状況変化



結果④-2(新条件)

令和元年度対照群のお薬手帳持参状況変化



考察④(新条件:令和元年度)

- 送付群、対照群ともに、毎回未持参の患者割合は若干増加していたが、送付群の方が、増加の程度が小さかった。(送付群+2.8%、対照群+4.4%)
- 送付群、対照群ともに、毎回持参の患者割合は増加していた。送付群では17.1%、対照群では13.0%と、送付群で増加の程度が大きかった。